

授業科目名	芸術文化・観光プロジェクト実習2	担当教員	尾西 教彰 田上 豊 近藤 のぞみ 小畠 克典 小林 瑠音 深澤 南土実 石井 路子 岡元 ひかる 野津 直樹 崔 光雄 河村 龍也 小島 寛大 安藤 竜
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	実習		
開講年次	2年 第2クオーター		
講義内容	芸術文化・観光プロジェクト実習1において把握した全体像をふまえ、グループに分かれて基礎的な知識・技能を学ぶ。具体的には、国際的な演劇祭の運営スタッフとして、個別公演やイベントの企画運営、招へい公演の調整、演劇鑑賞者の観光周遊を促進する広報宣伝業務等の実務を行う。また、中間時点で課題等を共有する場を設定し、芸術文化と観光の双方の視点を生かした技法についてアイディアを出し合う。これによって、芸術文化・観光プロジェクトが生み出す新たな価値への理解を深め、スタッフワークの実践力の向上を図る。		
到達目標	① 演劇祭の全体像をふまえ、アートマネジメント、舞台芸術・技術、観光・情報など芸術文化分野と観光分野の各実務について基礎的な知識・技能を身につけることができる。 ② 芸術文化分野と観光分野それぞれの立場から他の実務との連携についてイメージし、芸術文化・観光プロジェクトが生み出す新たな価値を認識することができる。		
授業計画	事前学習として、芸術文化・観光プロジェクト実習1において把握した演劇祭の全体像をふまえ、自分の関心分野を絞り込み、実習現場となるプロジェクトを選び、実習先との打ち合わせを経て、実習計画書を作成する。 実習中は、演劇祭の運営実務に従事し、実習指導者による指導・助言を受けながら、基礎的な知識・技能を学ぶ。芸術文化分野と観光分野双方の視点を生かし、運営についてシミュレーションを行い、具体的な実務やリスクを予想して対応を考えたり、観客に対して観光情報を提供する仕組みを考え、実践する。 中間時点及び最終日には、芸術文化と観光の視点から、学生による報告と演劇祭主催者等との意見交換会を実施する。 事後学習として、学生は完了報告書を作成する。		
事前・事後学習	参加する学生は必ず事前説明会等には出席し、定められた様式で、実施計画書、日報、完了報告書を作成する。		
テキスト	特になし。		
参考文献	適宜指示する。		

成績評価の基準	実習の態度 (40%)、日報 (30%)、実習報告書・プレゼン (30%)
履修上の注意 履修要件	芸術文化・観光プロジェクト実習1を履修済であること。
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。
備考欄	定員超過の場合は、志望理由等をもとに選考を行う。